



# 豊かな生活の土台となる日本語力の育成を目指して

—外国人対象，日本人対象の日本語教育研究—

総合教育センター／国際交流センター  
助教 中石ゆうこ（なかいしゆうこ）

県立広島大学 広島キャンパス 1132号室  
Tel 082-251-9811  
E-mail yukonakaishi@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： 日本語教育 第二言語習得研究 日本語学

キーワード： 日本語文法 オノマトペ 日本語力 教材 外国人児童 日本人のための日本語 やさしい日本語

## ● 現在の研究について

私は、「豊かな言葉は豊かな世界の扉を開けるカギとなる」という信念から、外国人（成人，児童・生徒）対象の第二言語としての日本語教育，および日本人を対象にした，表現ツールとしての日本語力の育成の両方を視野にして，研究活動を行っています。日本語学習者の習得状況の実態を活かした教材，指導法の開発に強い関心を持ち，現在は，次の三つの柱で研究を行っています。

### (1)日本の学校で学ぶ外国人児童の語彙に関するつまずきの解明と語彙リストの作成

近年の国際化の流れの中，日本でも，日常生活の中で日本語とその他の言語の間を行き来して生活している「外国につながる子どもたち」が増加しています。外国につながる子どもたちは，学校教育の現場において教科の学習だけでなく日本語の学習も同時に必要であることが多いため，学習においてつまずきが起こりやすいと考えられます。具体的なつまずきとしては，「3日前」は未来のことだと勘違いするとか，九九をうまく言えないとか，枚挙に暇がありません。このようなつまずきに対して，学校現場では現在も様々な取り組みがなされていますが，その取り組みが痒いところに手が届くものになるためには，教科学習のつまずきの裏に隠れた言語面での問題，認知面での問題を明らかにし，その特徴をつかむことが必要であると考えています。

そこで，私と共同研究者は，実際の教育現場で見られたつまずきに着目し，日本語を母語としない児童にとってどんな語の指導が難しいのかを観察することで，指導が重点的に必要な語彙の傾向を明らかにしています。

### (2)日本語の自動詞，他動詞に関する第二言語習得研究と教材開発

日本語の自動詞，他動詞は，「開く—開ける」，「決まる—決める」のように対をなすものが多いという特徴があります。多くの人を経験するように，英語においても，rise-raise, lie-layのように形態が異なる自動詞，他動詞が存在し，これらの動詞対のうち，どちらが自動詞でどちらが他動詞かを区別して記憶することに困難を覚えた経験は多いと思います。日本語の自動詞，他動詞はこのような異形態の自動詞・他動詞対が，英語よりさらに多く，主要な対応パターンだけでも10種類近くあります。よって，日本語学習者にとって自動詞，他動詞を区別して，正確な形態を記憶することは大きな負担とも言われています。そこで私は，多くの日本語学習者にとって泣き所の一つである「形態の複雑さ」による問題を解決するために，自動詞を赤色，他動詞を青色に色分けして表示する指導方法の効果を探る研究を行いました。その結果，色分けが自動詞，他動詞の区別に良い効果を与える学習者と，そうではない学習者がいることが分かりました。

今後は，自動詞，他動詞の難しさを決定している要因を「形態の複雑さ」以外の要因にも目配りしつつ解体して行き，その原因をつきとめるつもりです。

### (3)日本語のオノマトペに関する第二言語習得研究と教材開発

オノマトペの使用をめぐる一番の問題とは，日本語母語話者，特に大人にとっては，それを使ったときに非常に「ぴったりくる」，「しっくりくる」感じがするのに対し，第二言語学習者にはその感覚が理解しがたく感じられるということです（今井・針生 2007）。日本語教育の現場では，成人でも児童・生徒でも同じように，日本語

のオノマトペの指導が難しいことが指摘されています。例えば、中国語を母語とする日本在住のある研究者は、来日当時、レンジを「チーンしてください」の意味が予測できなかったと回想しています(彭 2007)。

これまでの研究で、成人学習者の回答には、例えば「浮き輪で水面に浮かんでいる」様子を「うきうき」, 「はらはら」の意味を「元気な様子」などのように、日本語母語話者の使用では見られないような場面と語のマッチングに関する誤用が見られることが分かっています(中石・佐治・今井・酒井 2011)。

児童・生徒対象の日本語指導でも、オノマトペは指導の難しい語彙の一つになっています。そこで、これらの問題に対応するために、新しい指導法を現在開発しています。オノマトペは、小学校の国語科では「様子のことば」の一つとして指導されることが多いので、それぞれのオノマトペがどんな語と結びつきやすいのかを日本語コーパスなどを用いて分析し、楽しく学習してもらうためのオノマトペカードを作成し、小学校などの教育機関や読書活動支援団体で試用してもらっています。最終目標として、日本語のオノマトペ指導について実証的な研究からの提案を行いたいと考えています。

#### 【引用文献】

今井むつみ・針生悦子(2007)『レキシコンの構築:子どもはどのように語と概念を学んでいくのか』岩波書店

中石ゆうこ・佐治伸郎・今井むつみ・酒井弘(2011)『中国語話者のための日本語教育研究』第2号, pp.42-58., 中国語話者のための日本語教育研究会

彭飛(2007)『日本語学』26(7), pp.48-56., 明治書院.

## ● 今後進めていきたい研究について

(1) は社会的要請が強いテーマで、今後、日本社会の中で外国籍の人材の受け入れとその定着に向けた取り組みが議論されるようになると、さらに重要になると考えられます。(2), (3) は、子どもだけではなく、成人対象の日本語教育での学習項目でもあり、両者に共通する困難点です。オノマトペも自動詞、他動詞も語彙と文法のはざまに位置する項目であるため、語彙的視点、文法的視点など多角的分析が必要になる研究です。

(2), (3) に関しては、調査を実施すると同時に、研究成果をインターネット上に教材として公開しています。これからも3つのテーマの成果を相互に反映させ、その相乗効果を生むことを目指して研究に取り組んでいくつもりです。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

### 1. 子どもの教科学習におけるつまずきの仕分け

現在、日本語母語児童および日本語を母語にしない児童を対象にして、語彙力が教科学習に与える影響について、広島県内の学校と連携して調査を通して明らかにしています。今後は、それぞれの児童のつまずきが、語彙力などの日本語能力が不足することに起因するのか、それとも、認知能力が未発達であることに起因するのかを仕分ける必要があります。子どもの教科学習におけるつまずきを、それぞれの児童のパフォーマンスを比較することで、明らかにするつもりです。

### 2. 教材の開発

子ども向け、成人向けの日本語教育、教材開発に関心のある学校や企業と連携して、学習者の習得の実態を活かした日本語教育で必要となる教材の開発を行いたいと考えています。これまでに、Web上でのコンテンツの公開(下図参照)、アプリで動く学習システムの開発を行いました。今後は日本語教育の経験を生かして、外国人に分かりやすい、誤解しにくい画像やイラストの作成に関する提案を行うことにも関心を持っています。



図1. HPで公開中の自動詞、他動詞学習クイズ

## ● これまでの連携実績

別府大学日本語教育研究センターでの講演会(2016年度)、日本女子大学での講演会(2017年度)では、自動詞、他動詞の指導をテーマにして、授業で絵カードや文字カードを用いる際に陥りがちな問題点、教師の間違えやすい自動詞、他動詞指導に関する勘違いについて、会場と一緒に考えました。また、広島市立基町小学校をはじめとする県内小学校と連携して、言語力を測定する調査を行い、その結果に基づいて、より良い言語教育の在り方や指導方法などの助言をしています。